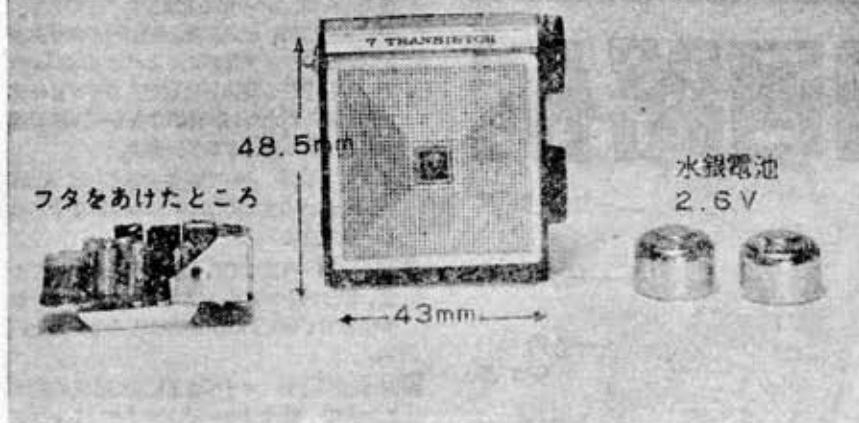


世界最小の7石ラジオ



イヤホン スタンダード・マグネチック形
寸法 縦 48.5×横 43×厚 20ミリ
重量 85g
電池 2.6V 水銀電池マロリー RM 640
(または松下水銀電池 MN) 2個

以上であるが、スタンダードでは、マイクロニツク・シリーズの商品化の意図としては、この超小形ラジオ・シリーズは「持ち歩く」というより何らの抵抗なく身に付けられるという軽便さを狙っている。

またリスバンド（腕時計のようにリストバンドにより腕につけられる）。

ヘンダント・チェーン（チェーンにより、あたかもペンダントのように使える）

またグリップ・バンド（手首にかけて持てる）などちようどわれわれが定期入れや万年筆、ライターを身につけるようにラジオを超小形したものである。

次に同社では、マイクロニツク・シリーズ第2作として FM/AM ラジオをハイライトの大きさと量産化できる見通しだそう。

トランシパーも計画中とかで、ピース形の超小形で量産できる見込。

最 近電子機器の超小形が目立ってきているが、日本でもマイクロモジュールや、モレクトロニクスなどを使った製品がでまわり初めている。これを使わないで、世界最小のスピーカー付7石トランジスタ・ラジオを完成した会社がある。

それは、ラジオ、通信機業界の最大の課題「超小形化」の開発のため、スタンダード無線（東京渋谷恵比寿・社長宮沢寛氏）で、極微電子技術（マイクロニツク）の研究を進めていたが、このほどスピーカー付の7石トランジスタ・ラジオを完成したものだ。

第1号は世界最小の7石トランジスタラジオ・マイクロニツク・ラビイで、来春早々、相模工場の第二期工事完成とともに、量産化月産5,000台生産開始、2月頃から売り出す予定である。

これまでの超小形ラジオは、軍用か、採算を度外視した試作品の域をでなかつたが、これを量産化により、一般家庭用として商業ベースにのせた最小のものである。

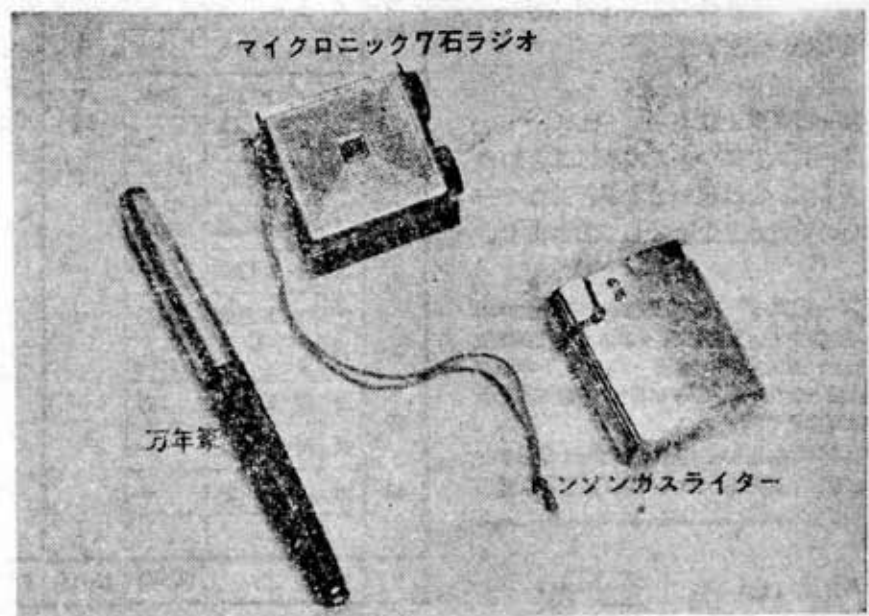
定価は、8,000円台を予定している。性能は、従来のポケット・ラジオと変わりなく、ピースより小さく、ロンソンのガスライターより軽い。これは特殊回路を考案し、抵抗などに超小形のものを使用し、電解コンデンサには、従来使用されていたケミコンは使用せず、タンタル電解コンデンサを使用し

て極力スペースを節約していることである。そのため面積にすれば、約27%削減したとおなじで、出力段はトランジスタの利点を応用した OTL にしたため、スピーカは出力トランスが不用で、重量も軽くなっている。

電池も1日2時間位の使用で、水銀電池のため1ヶ月は楽に持続できる。

なお規格は、次の通り

回路方式 7石スーパー・ヘテロダイ
受信周波数 540~1,600 kc
中間周波数 455 kc
感 度 極微電界級
出 力 70 mW
スピーカ 4cm 特殊パーマネント・ダイナミック形



万年筆とガスライターと比較したマイクロニツク7石ラジオ